



航空写真 scale1/5000



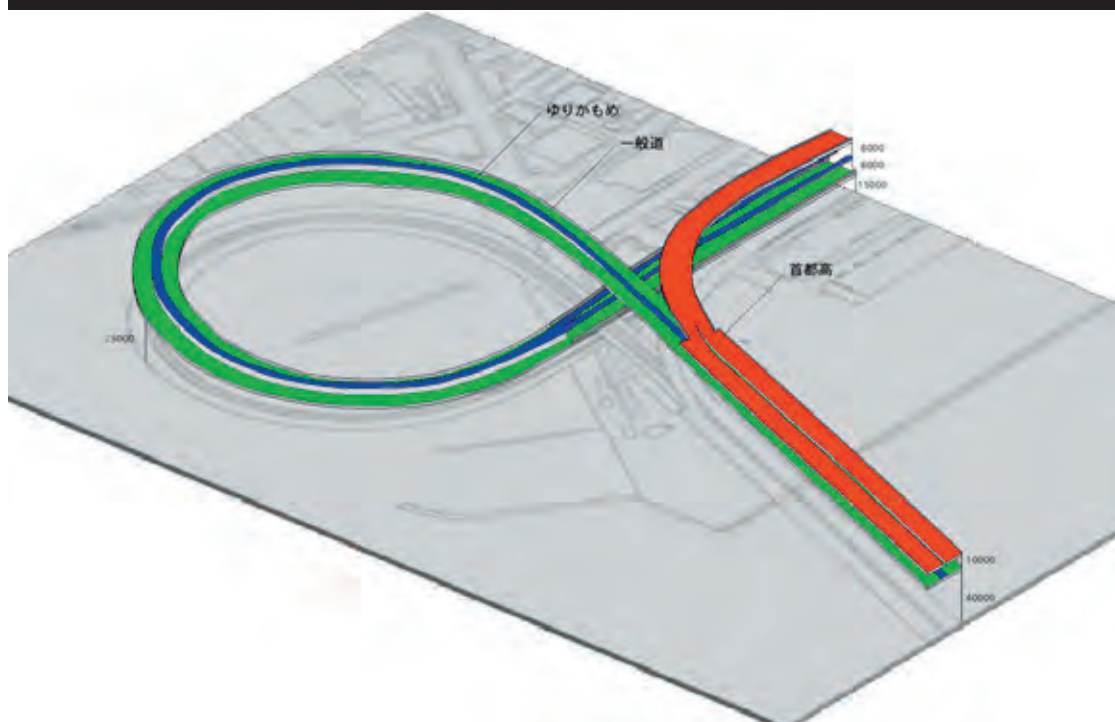
大スケールのグリッドパタンの街路と建物の隙間を縫うように走る高架。高架のスケール自体が小さい事も相まって、非常にスマートな線がスカイラインに描かれる。グリッドパタンの特徴である直角に曲がる交差点においては、パターンをなぞりきれずにベジェ曲線化される。空中を立体移動するという事の都市体験としての魅力が実現化されている高架である。

写真・特徴

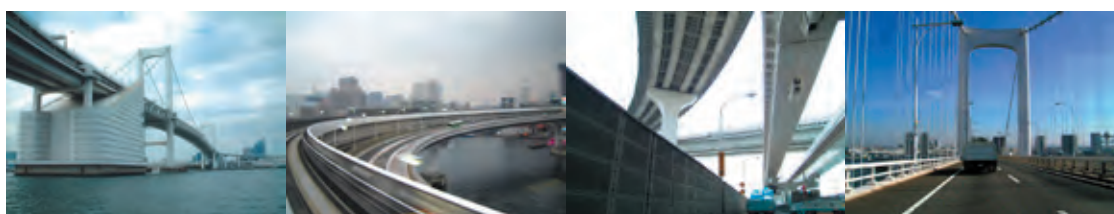
b. レインボーブリッジ



平面図 scale 1/5000



アクソメ図



海上というコンテクストのない場所に対して、非常に暴力的に配置。他流動の高架が一つの構造物となっており、スケールが巨大で、非常にシンボリックな性質が強く、ランドマークとしての副産的機能が大きい構造物。また、高架レベルが高い為に、ランプが螺旋系を描き、求心性を持つという独特の接続形体を要する。

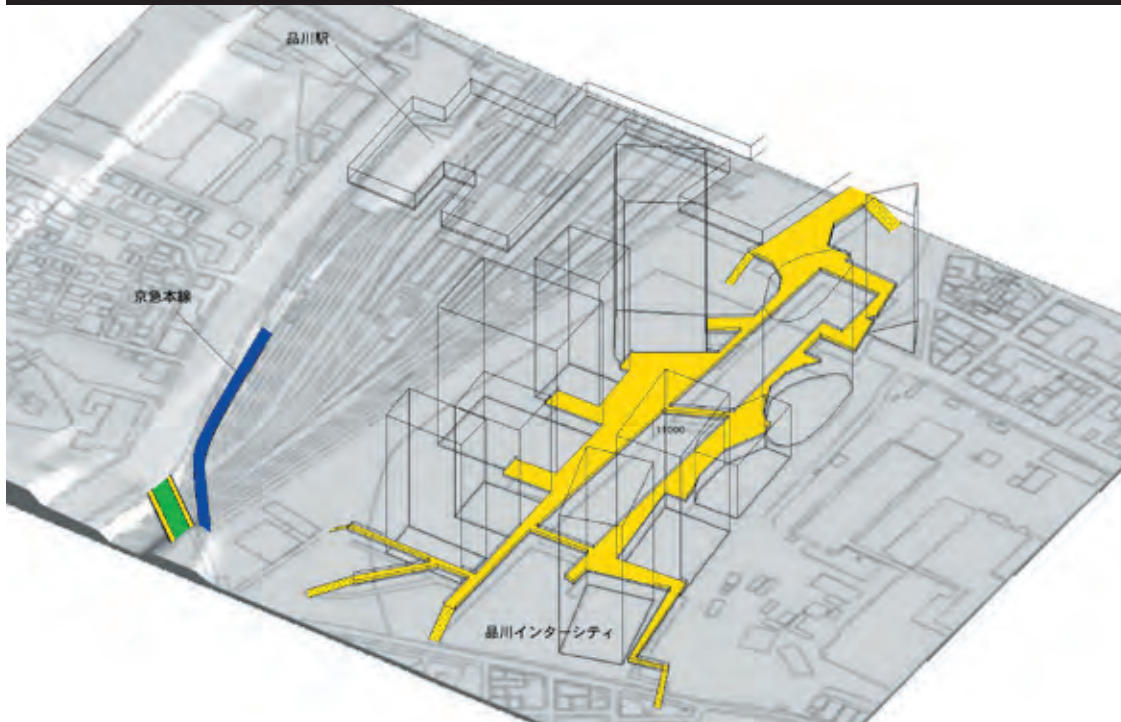
高架の暴力性もここまで大きくなると、都市におけるシンボルとしての新たな付加価値の方が重要に扱われるようになる。

写真・特徴

c. 品川グランドcommons・インターシティ



平面図 scale1/5000



アクソメ図



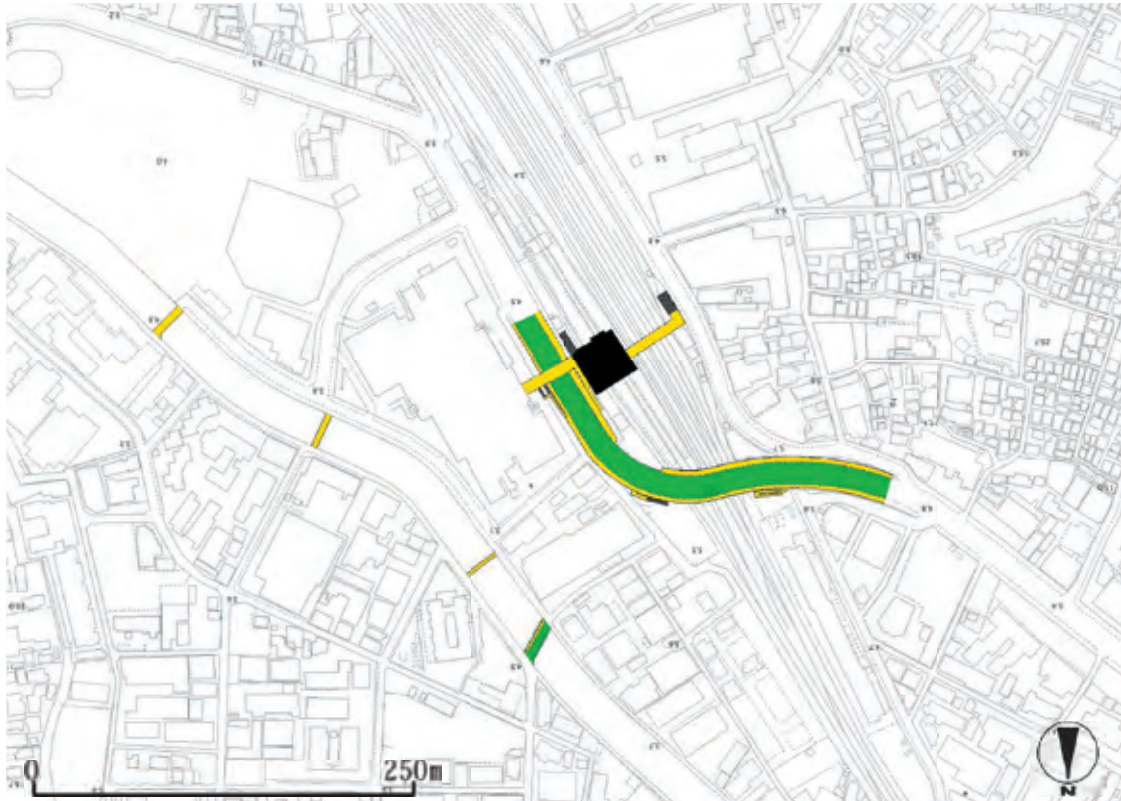
航空写真 scale1/5000



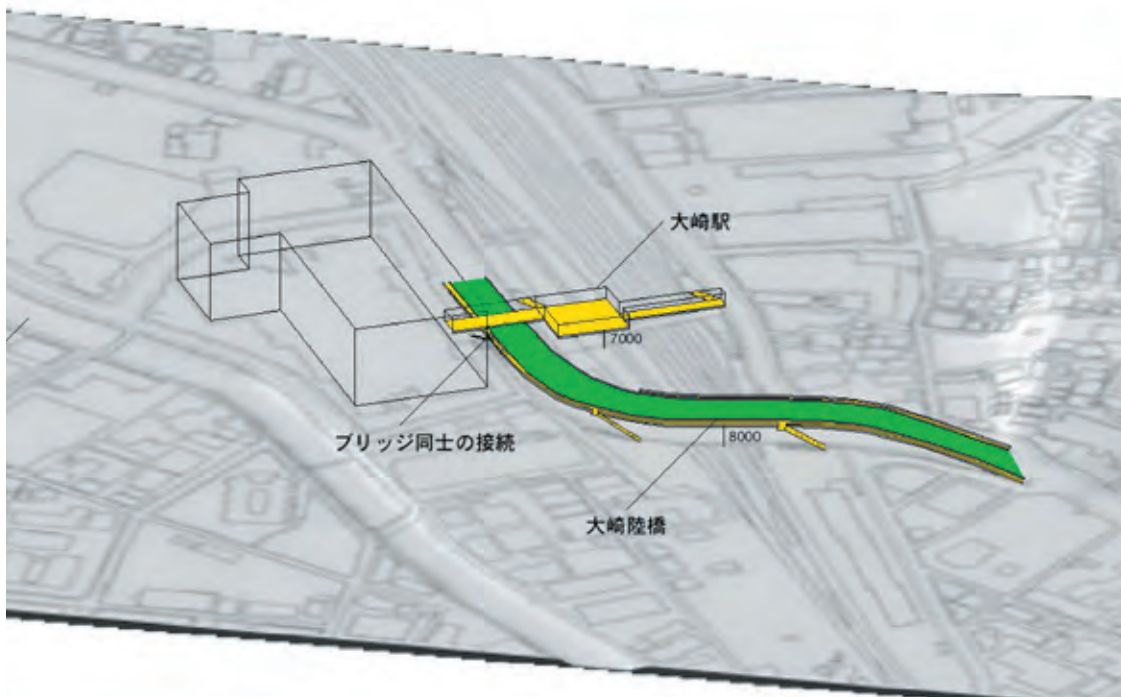
ブリッジが駅から連続し、10棟の高層建築を上空で接続する人工地盤。線状の大きな空気を挟み込む形式で、高架の生み出す悪環境を極力減らす思考。ヴォイドを抱える事で求心性が生じている。人工地盤は、接続性の向上を目的にどんどんと巨大化してしまう傾向にあり、結果として悪質な都市環境を副産するケースが多いが、ここでは的確な接続性とスケールの選択が行われている。

写真・特徴

d. 大崎



平面図 scale1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000



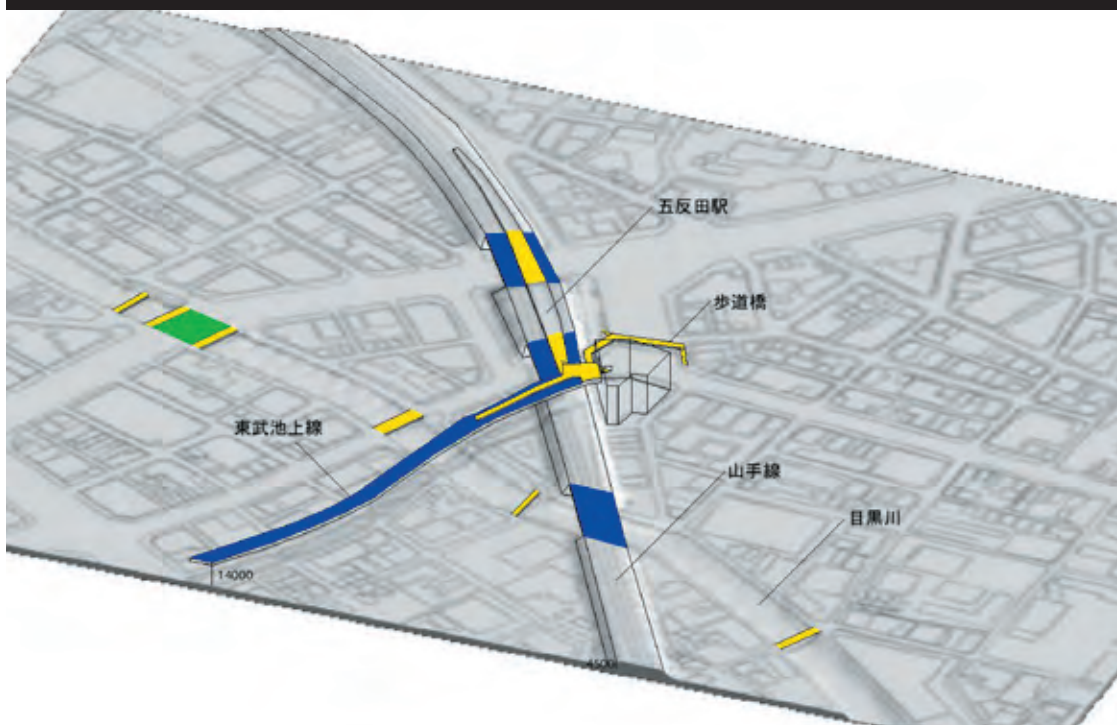
鉄道を横断する為の大崎陸橋と、駅と駅前施設を接続する為のブリッジという流動制御装置同士の積層。そこをさらにスロープと階段で強引に接続する。この接続が流動効率を向上させているのかは定かではないが、非常にユニークな空間が形成されている。

写真・特徴

e. 五反田



平面図 scale1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000

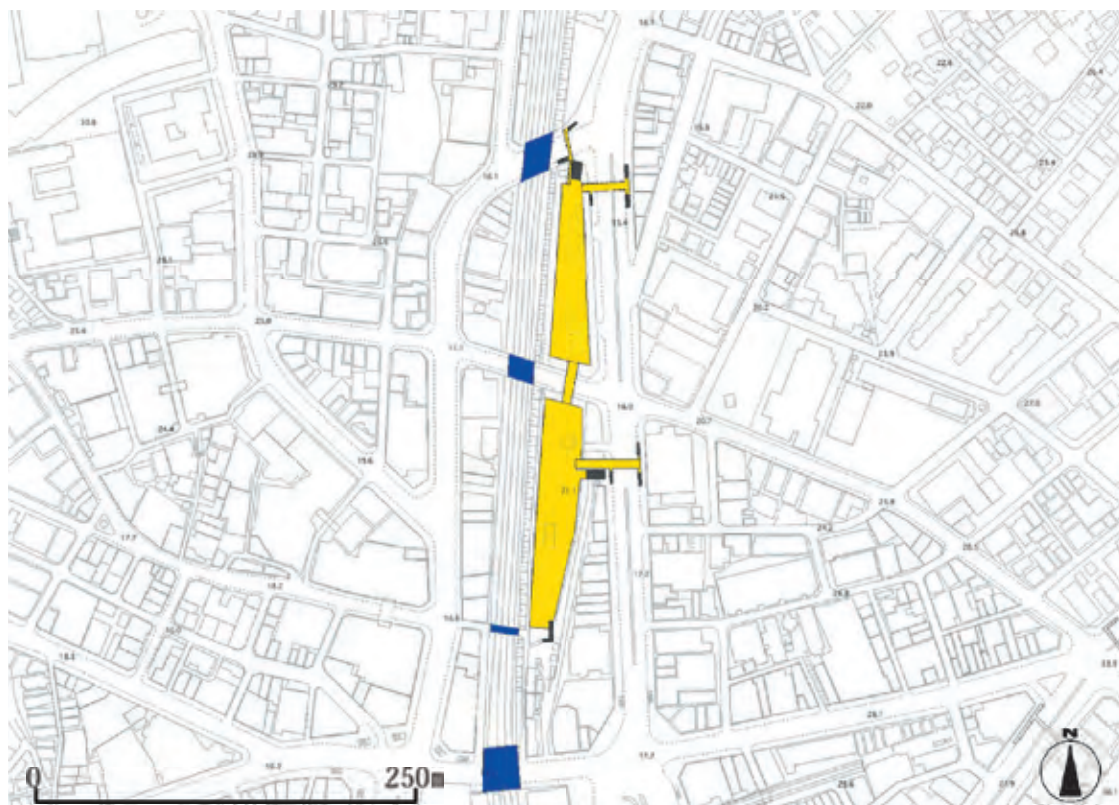


破線タイプの山手線の上に、池上線が乗り込み、建物に突き刺さるという空間構成である。隙間を見つけては流動空間に当てている。この空間も、非常に暴力的であるが、ある度合いを超越している事で非常に印象的な都市空間が副産されている。高架同士がクロスし池上線の高架レベルが高い事で、威圧的な印象を軽減している事も有効に働いている。

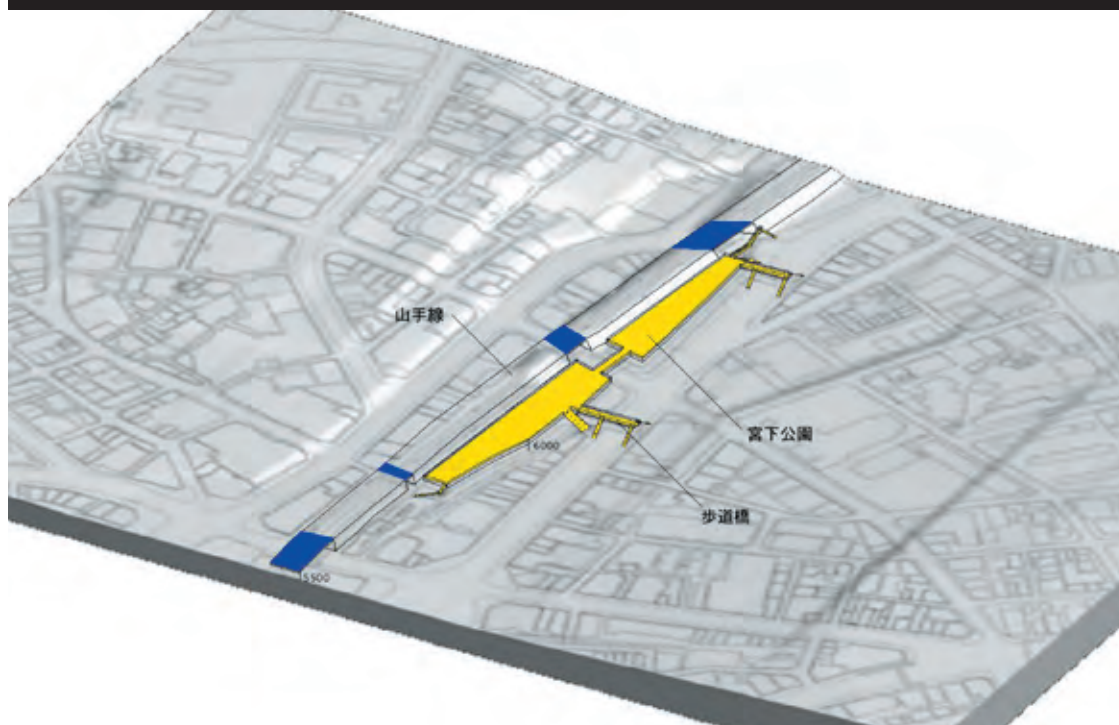
また、山手線ホームと歩道橋が、容易に行き来は出来ないが隣り合うという高架ならではのユニークな空間構成も見受けられる。

写真・特徴

f. 宮下公園



平面図 scale1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000

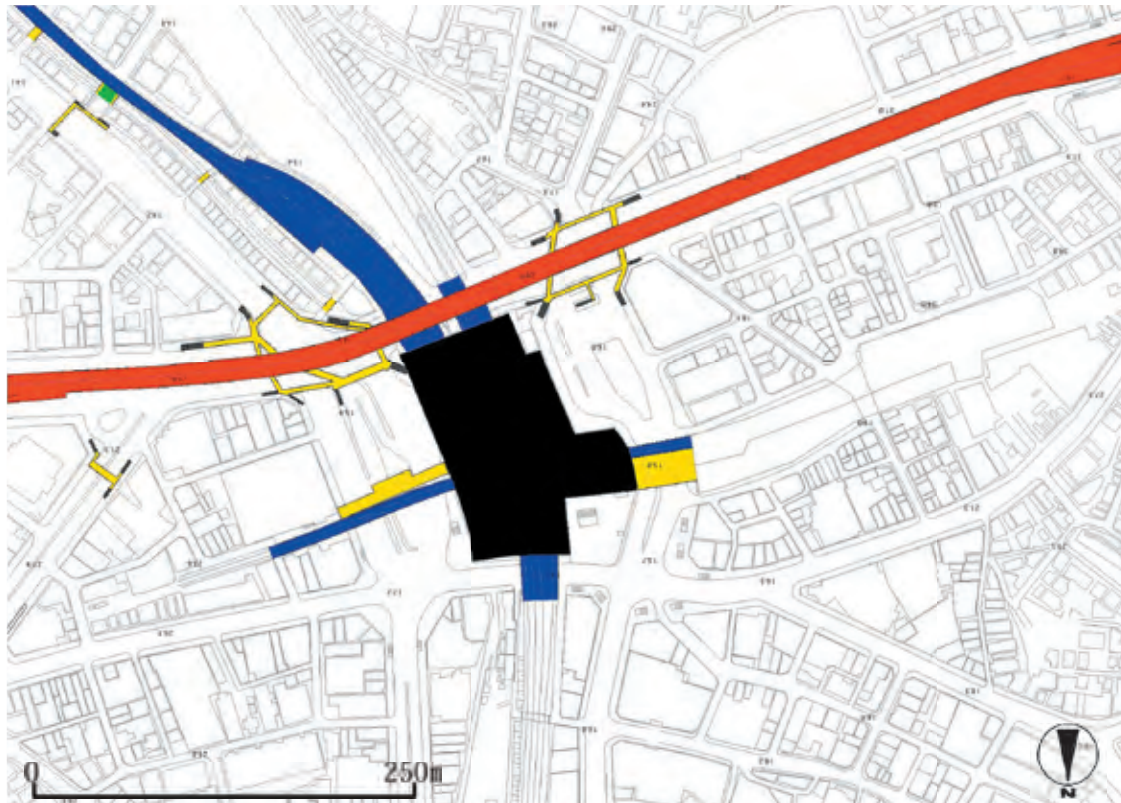


破線タイプの山手線と、人工地盤としての宮下公園が隣り合い、さらに歩道橋がネットワーク化された場所。高架面は公園・緑地として利用し、高架下を駐車場という特殊な利用形態である。あまり利用されていない事で、ホームレスの住処となりさらに利用されないという悪循環は問題を抱えてはいるが、渋谷というエリアを他の商業地区とは異なる場所として特徴づける役割を担ってることは確かである。

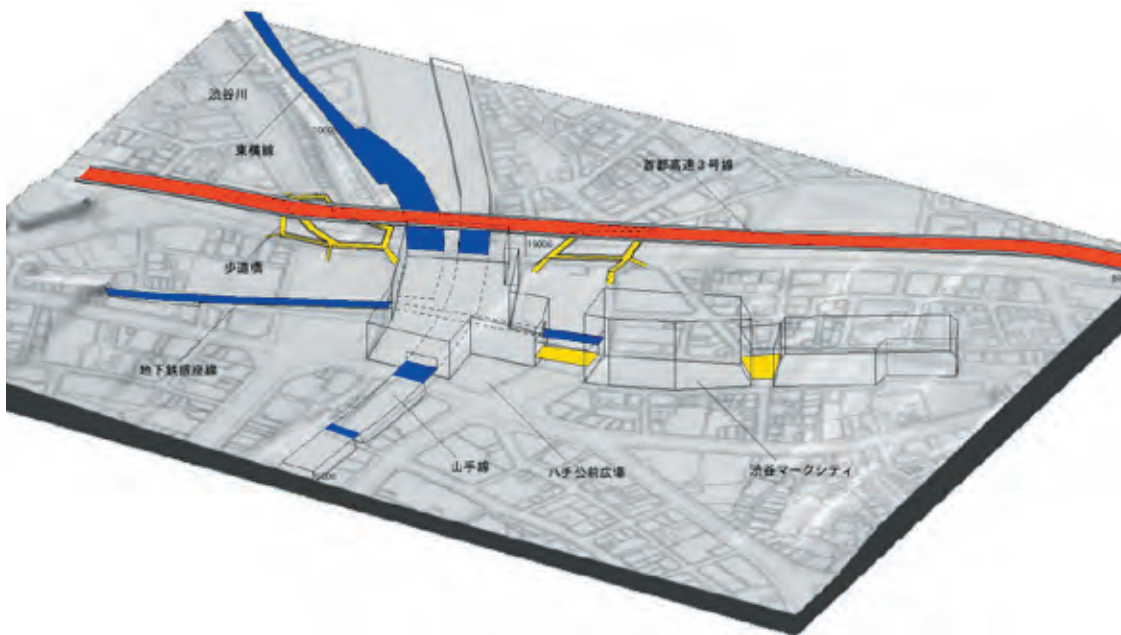
山手線から、同じレベルで緑地があるという風景はここにしかない。

写真・特徴

g. 渋谷駅



平面図 scale1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000



東京の立体的都市空間の代表ともいえる場所。地下鉄銀座線や山手線が駅ビルに突き刺さり、駅ビル同士を接続するブリッジがあり、その上を首都高が通り、さらには経路の豊富な歩道橋まである。非常に高架係数の高い未来都市的様相を呈する空間であり、ここまで徹底的に流動制御装置が積み重ねられると圧倒される。

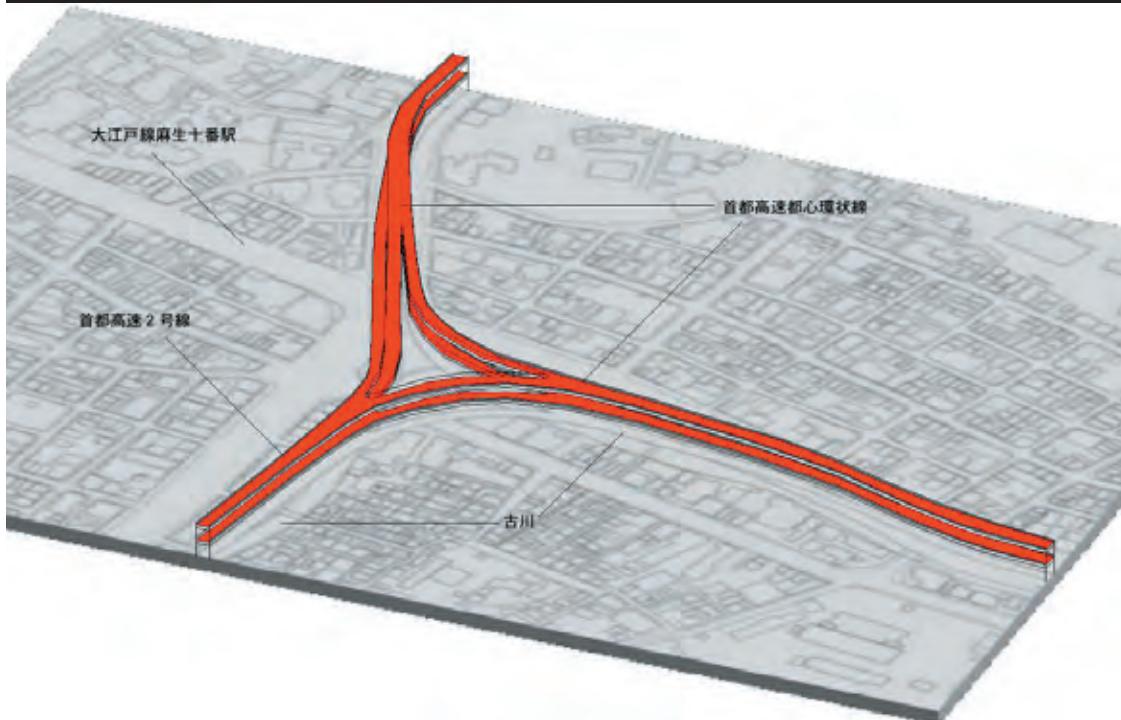
こうした、高架率が高くなる要因は用途地域として、多様な流動が集結する事の他に、凹地である事も関係している。銀座線が高架になる理由はまさに地形であるといえる。

写真・特徴

h. 一ノ橋ジャンクション



平面図 scale1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000



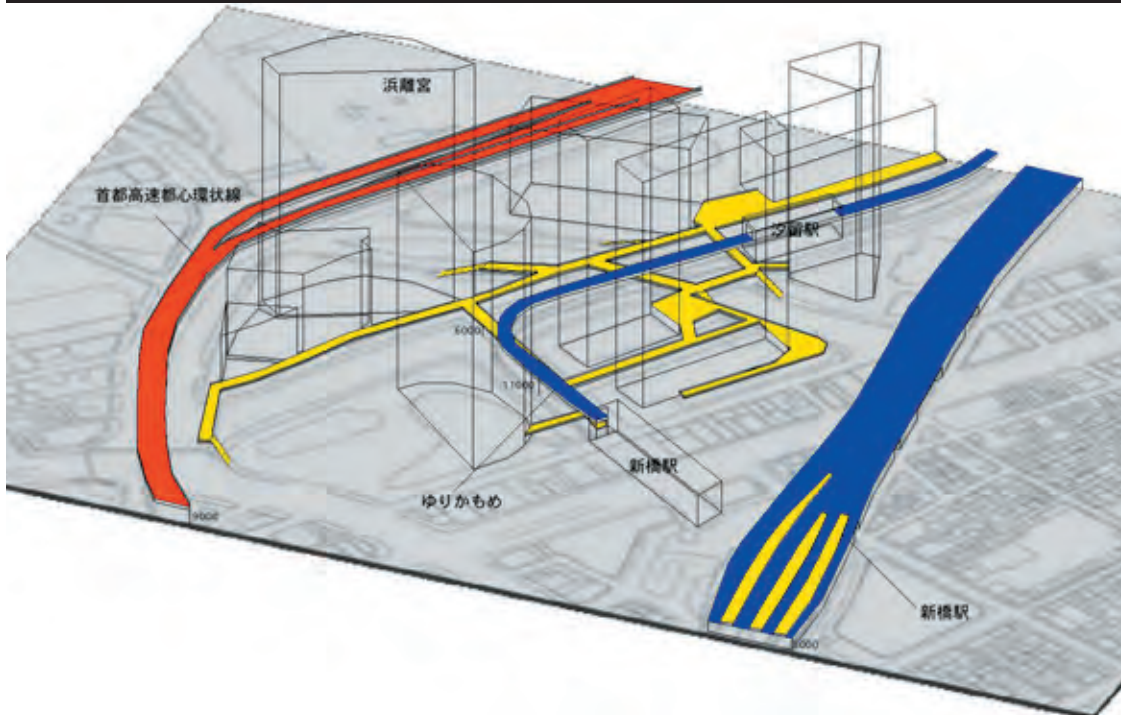
首都高のいくつかあるジャンクションの中でも、非常にシンボリックな場所。首都高の流動条件から定まるカーブが求心的な三角配置。三方に散らばるうちの2つは河川をなぞっており、ここは河川の屈折点上である。現状は寂れた公園として利用されているが、副産された環境のポテンシャルは非常に高いので、よりランドマーク的な価値を付加していくべき空間である。

写真・特徴

i. 汐留



平面図 scale 1/5000



アクソメ図



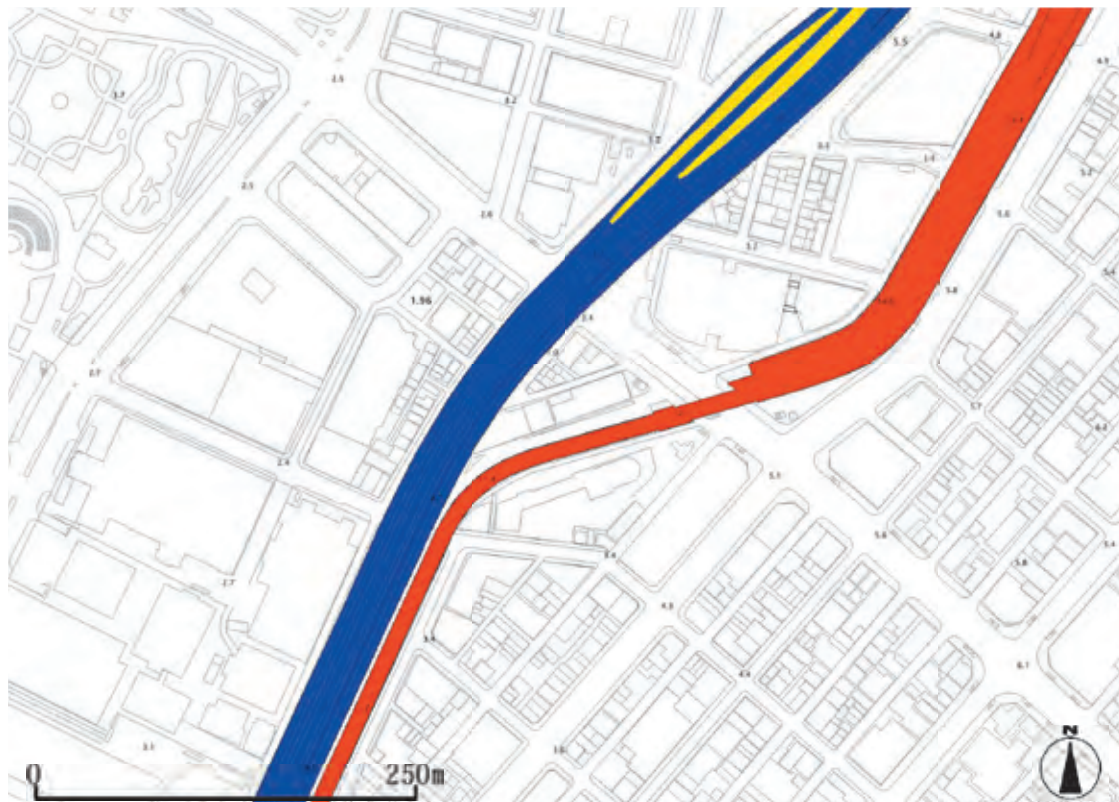
航空写真 scale1/5000



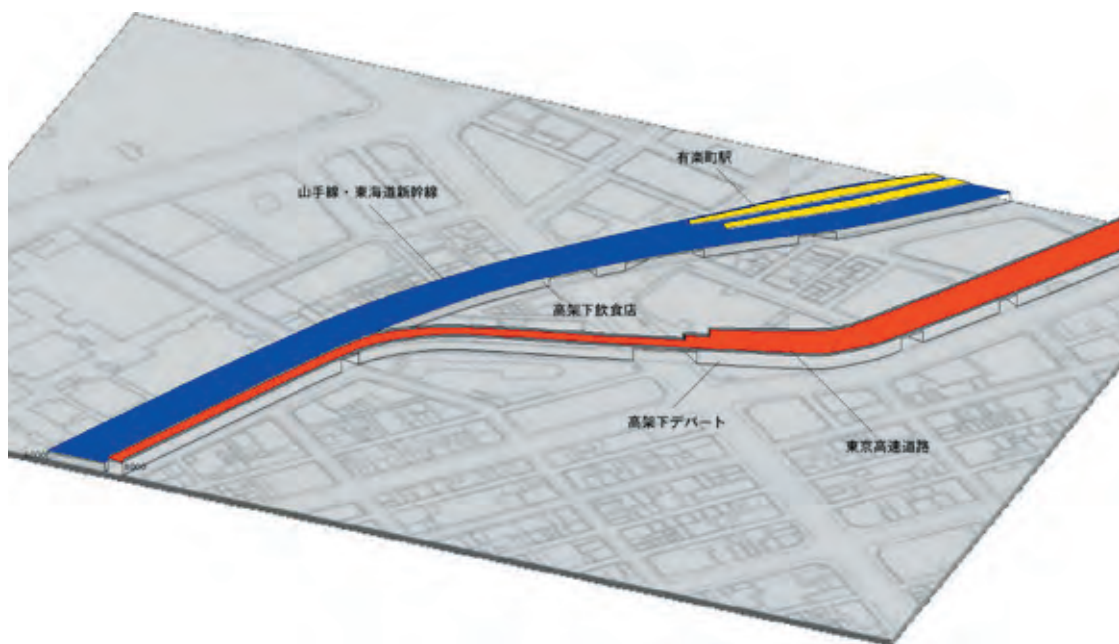
新たに再開発された超高層建築が立ち並ぶ立体的都市。ゆりかもめという新交通が足下を飛び交う様は造形的な副産価値も高いと思える。また、建物をやみくもに接続したような人工地盤面は、ある意味便利になっている事は確かだが、低速な流動程、流動を制御するだけでは高架の価値が認められないという、配置計画の難しさを表している。

写真・特徴

j. 有楽町



平面図 scale1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000



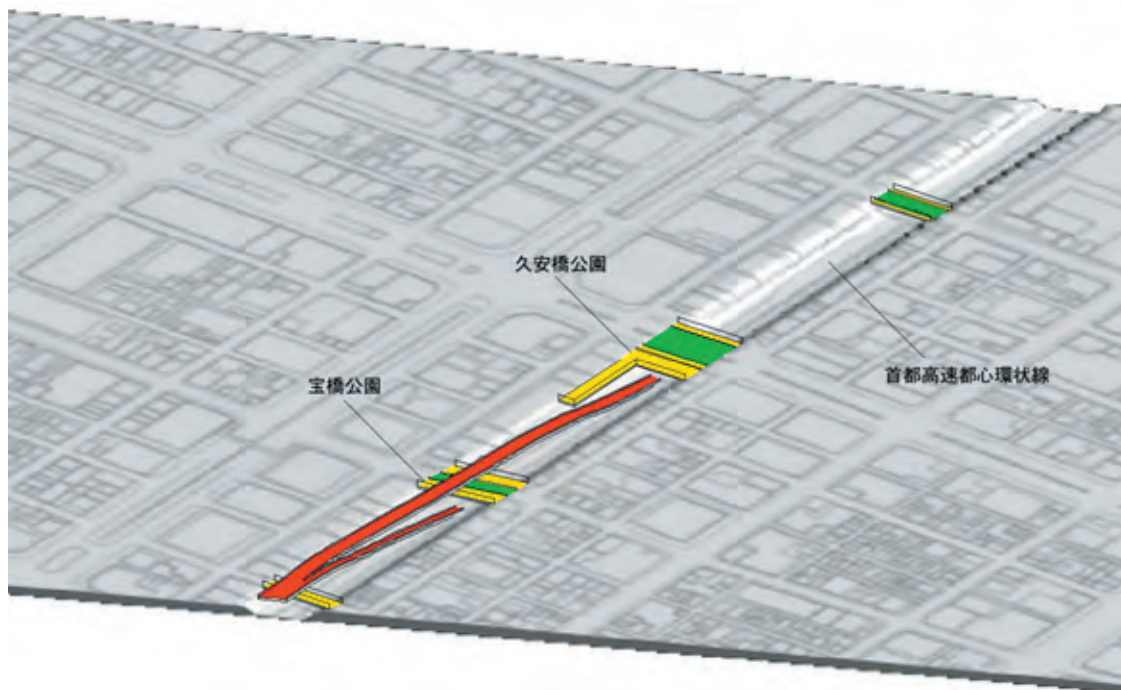
首都高と鉄道が同じように、周辺の用途に合わせて高架下利用されているエリア。高架のレベルも幅も大体同じであるこれら2つの差は、流動要因がもたらす境界形式の差であり、鉄道は高架面の流動が見えるが、首都高は見えない。それにより高架に対する印象は大きく異なり、首都高側は無駄な構築的威圧がある。だが、高架という土木スケールの巨大な異物を建築スケールに読み替え、地上に対する副産価値を見出している点の重要性はどちらからも指摘出来る。

写真・特徴

k. 築地川跡首都高



平面図 scale1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000



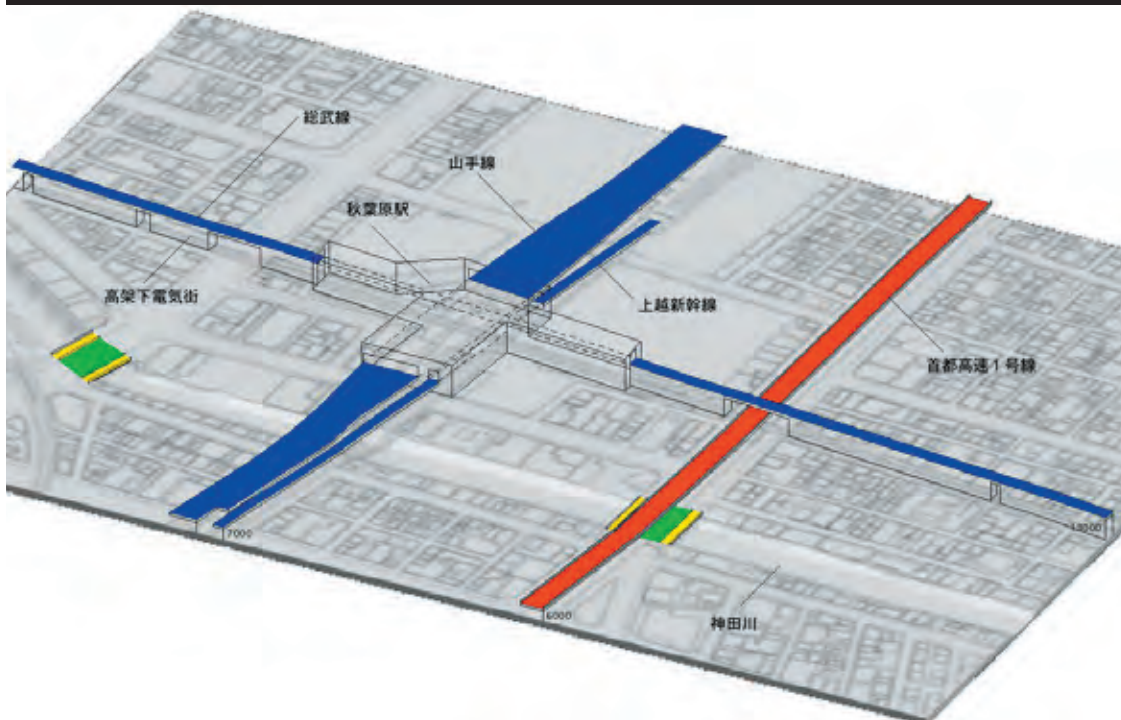
元々の築地川を首都高に転用したエリア。それ故に、大抵上空を威圧的に走る首都高が下を走るといふ逆転が起きている事で、首都高を俯瞰する視点場が出来ている。そうした高架面が都市公園として停滞する場として利用されている事も、高架の価値を高めている。それに合わせて、隣り合った公園をくぐって飛び越えるという、ダイナミックな断面移動をする高架がさらに積層される。

写真・特徴

1. 秋葉原



平面図 scale 1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000

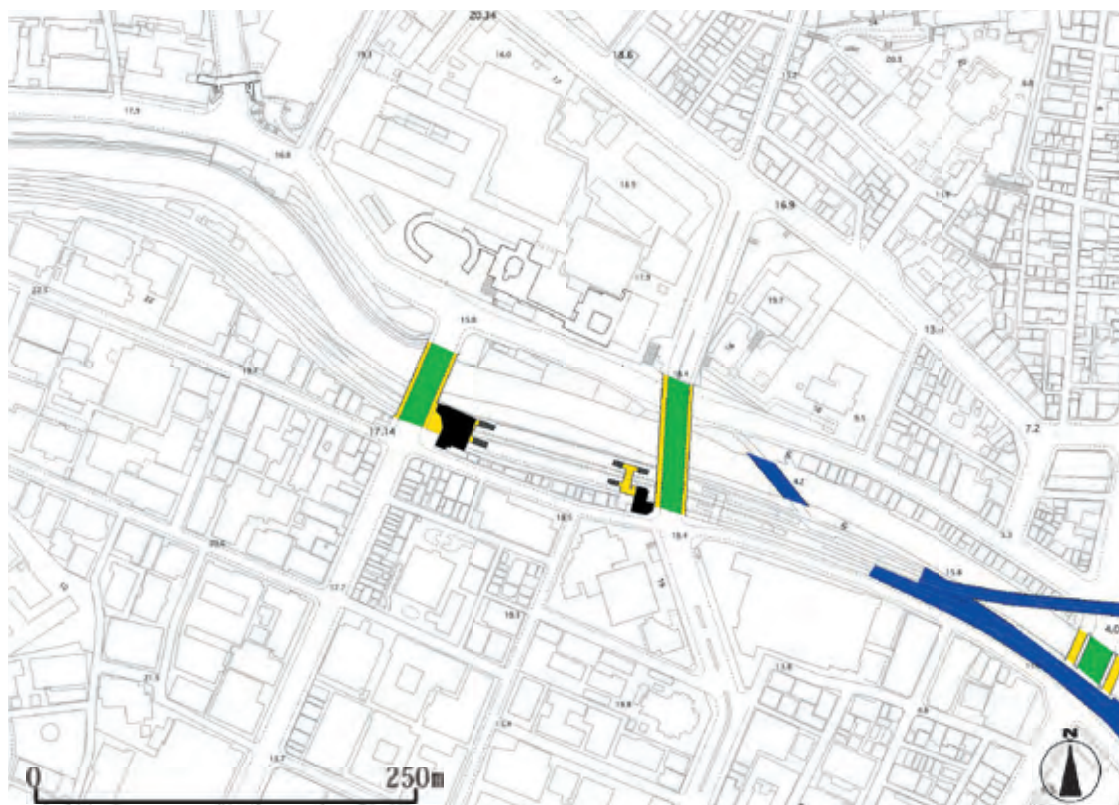


グリッド割りの街に沿って、鉄道同士や鉄道と首都高がクロスする。それゆえ総武線の高架レベルは通常の鉄道高架よりも高い。また、その高架下を周辺と同じ電気店として利用する事で、建築の屋上を電車が通っているような通常の高架下利用とは異なる錯覚を抱く。

また、首都高と鉄道と地上の空間が一つの地点を共有し、高架の持つ自由な交錯という特権を最大限に活用している。こうした、近いのに遠いという状態が都市空間を体験する際の魅力であると同時に、流動経路でイメージする都市空間と現実の都市空間とのギャップを少しずつ修正していくという、副産的効果も併せ持つ。

写真・特徴

m. 御茶ノ水



平面図 scale1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000

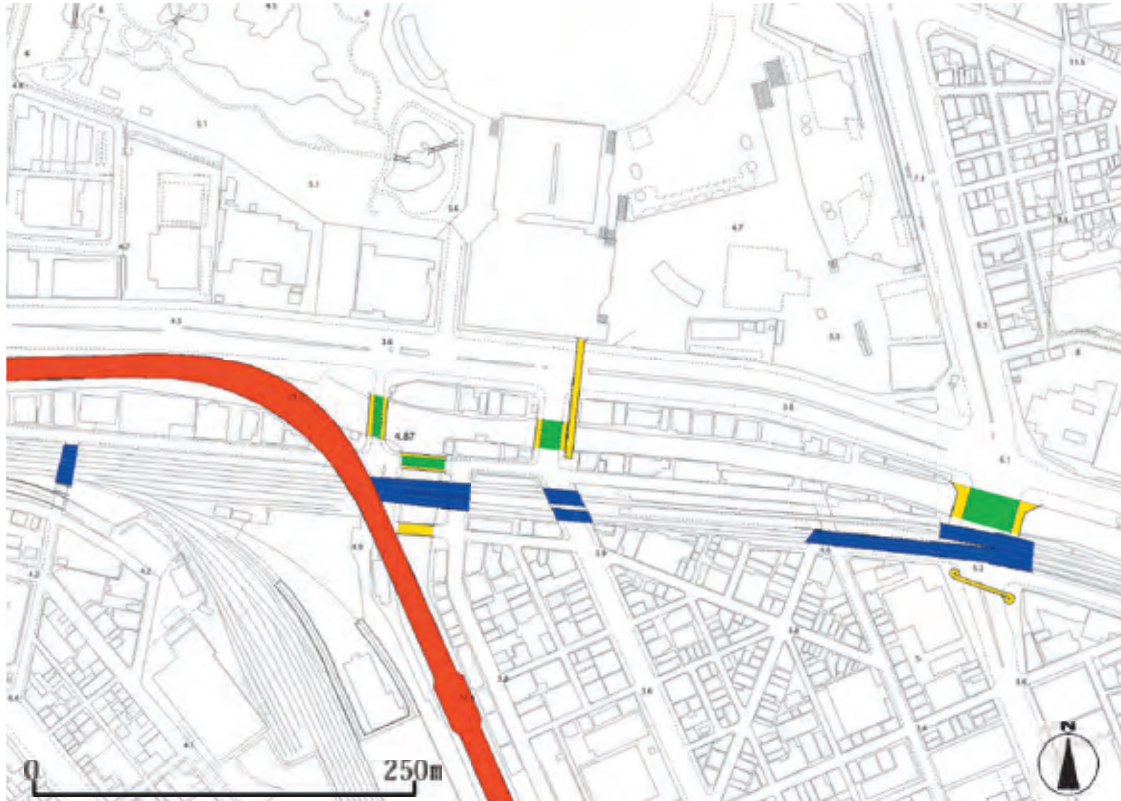


横点線タイプのあらゆる流動要因の高架が、多様なレベルで並ぶ、横点線タイプの高架の好例である。高架の全貌を側面から眺める視点場に富んでいる事で、高架という水平方向に広がる構造物が、ランドスケープの中でオブジェクトとしての価値を得る。その際に、聖橋のように側面が装飾的に扱われているとより一層副産的価値は高くなる。

掘り割りという地形の起伏を流動の制御に利用している事も、空間の魅力となっている。結果、それぞれの流動空間がヴォイドを囲み込むような求心的構成となっている。また、地下鉄が水路を渡る一瞬だけ高架になるという、ユニークな状況も生まれてきている。

写真・特徴

n. 水道橋



平面図 scale 1/5000



アクソメ図



航空写真 scale1/5000

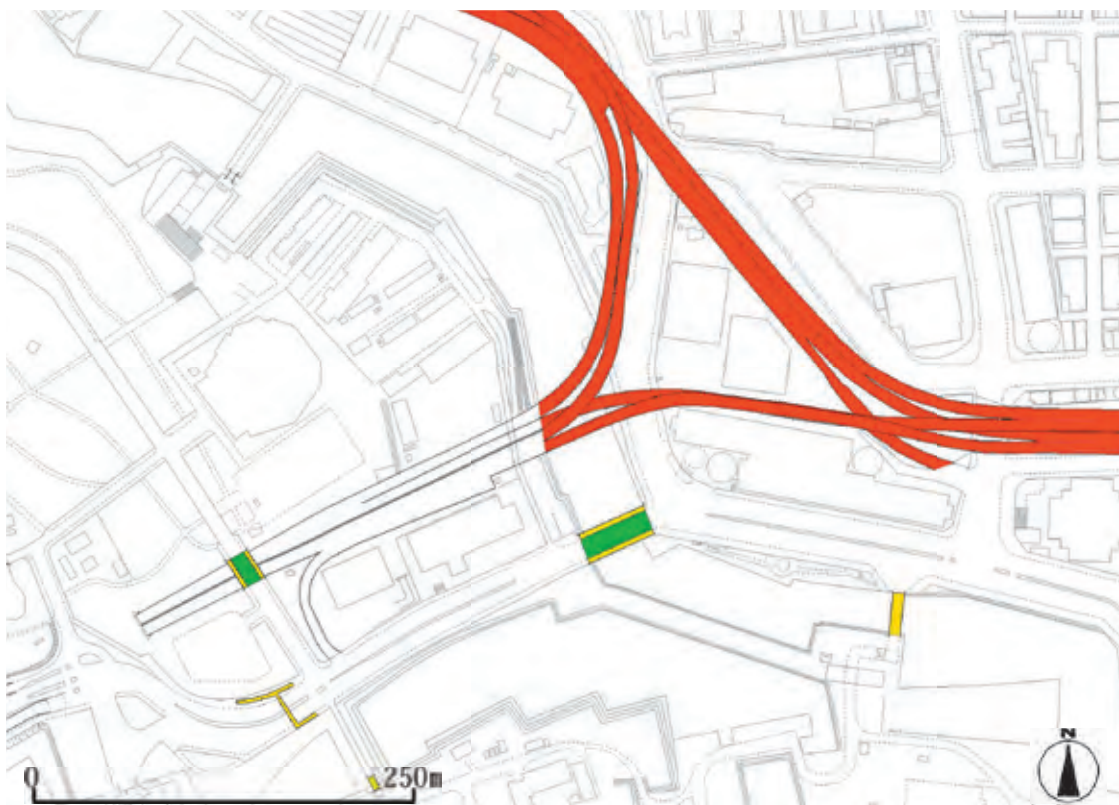


実線タイプの首都高、破線タイプの鉄道、横点線タイプの一般道と3タイプの高架手法を駆使して流動が制御されている場所。水路をなぞる首都高が水路極率に合わせきれず、ズレる。それにより、交差点の四方で質の異なる場が生まれていると同時に、交差点上の空が開けている。

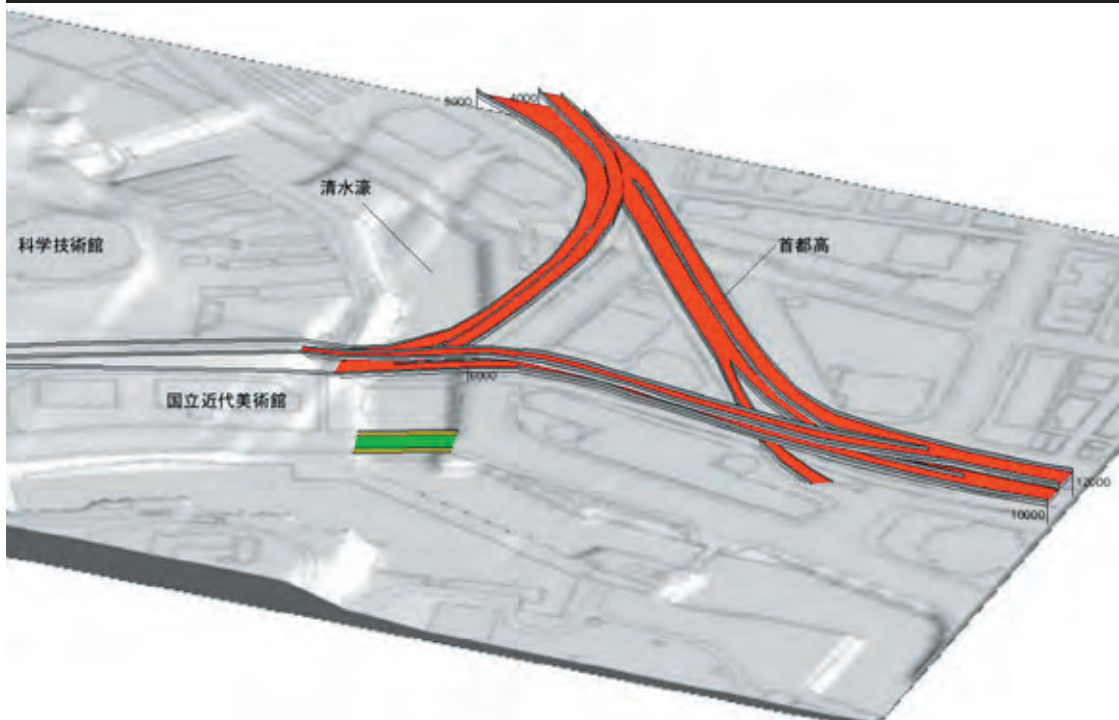
また、水道橋駅と東京ドームを接続する歩道橋は珍しく階段がなく歩道橋全体がスロープ状になっている。東京ドームに向かって斜路を上るという気持ちを高揚させる空間に合わせて、水路、建物の脇、都市計画道路とシークエンスの変化が体験的な魅力となっている。

写真・特徴

0. 竹橋ジャンクション



平面図 scale1/5000



アクソメ図



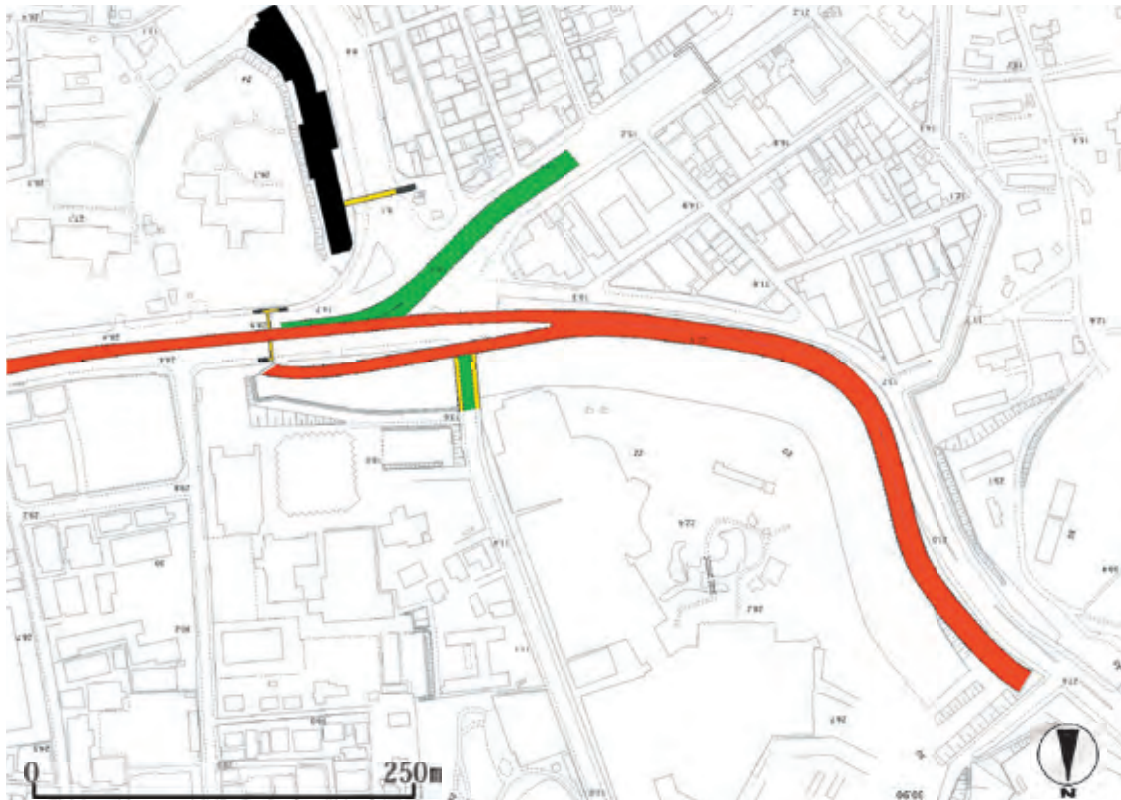
航空写真 scale1/5000



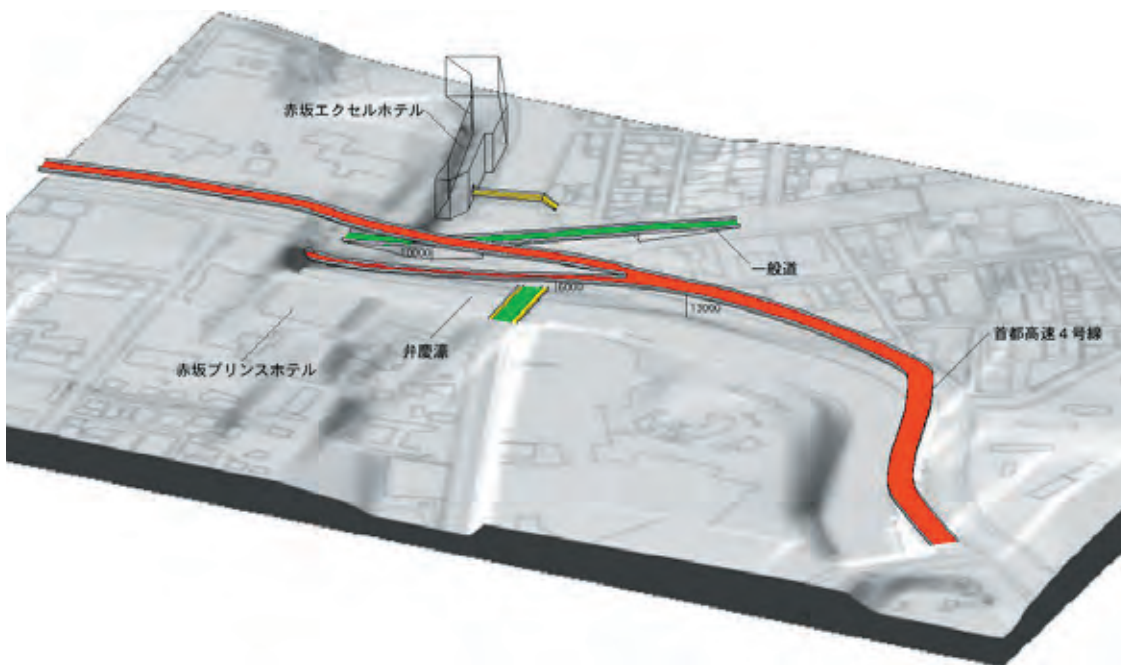
一ノ橋と同じような、三角平面のジャンクションだが、中心に建物が建っていて、求心性は地上からは確認出来ない。しかし、濠を飛び越える事で、側面に対する視点場は多く獲得されている。また、建物の隙間に首都高が入り込んでいくような風景はやはりダイナミックである。

写真・特徴

p. 赤坂見附



平面図 scale1/5000



アクソメ図